

■**榎田民蔵** 日本におけるマルクス経済学の開拓者で、日本資本主義論争論客。最高峰の期待のなか早世した。

くしだたみぞう

内閣発足・・・1885＝ 福島県磐城郡上小川村(いわき市小川町)に生まれ、

帝国憲法発布1889＝ 4歳：

日清戦争始・1894＝ **9歳**：

日比谷公園・1903＝**18歳**：

日露戦争終・1905＝20歳：

東京外国語学校を経て、京都帝国大学に入学し河上肇に学ぶ。

同大学卒業後、東京帝国大学助手となる。

この間、マルクス「共産党宣言」の研究に打ちこみ、

明治天皇没・1912＝**27歳**：

ロシア革命・1917＝32歳：〔大阪朝日新聞社〕に入社して論説委員となるが、

本格政党内閣1918＝33歳：退社して、同志社大学教授・法学部長となるも、

ベルサイユ条約・1919＝34歳：東京に移住して、東京帝大講師となったが、

大暴落・・・1920＝35歳：_森戸事件を機に辞任し、高野岩三郎の主宰する大原社会問題研究所の研究員になって、ドイツに留学。

原敬首相暗殺1921＝**36歳**：

水平社結成・1922＝37歳：*帰国後、「唯物史観に於ける「生産」および「生産方法」「社会主義は闇に面するか光に面するか」等一連の論文を発表し、河上肇・高田保馬・小泉信三らに対する批判を通じてマルクス経済学の研究を深めた。

_研究分野は価値論・貨幣論・地代論・日本農業論に及び、社会問題に関する論説も多い。

海軍軍縮条約1930＝**45歳**：

満州事変・・・1931＝46歳：*論文「わが国小作料の特質について」は日本の地主的土地所有制の性格を規定した画期的労作である。

_さらに、小作料論を中心に日本資本主義論争に参加没頭するうち、

帝人疑獄事件1934＝49歳：*過労のため、クモ膜下出血で机上に倒れ、急死した。

妻の榎田ふきは戦後の婦人運動家として著名。